

2011年9月22日
NPO 知的資源イニシアティブ

関係各位

Library of the Year 2011 優秀賞の決定および最終選考について

「Library of the Year (ライブラリー・オブ・ザ・イヤー) 大賞・優秀賞」は、これからの日本の公共図書館のあり方を示唆する、先進的な活動を行っている機関(図書館に限らない)に対して、特定非営利活動法人 知的資源イニシアティブ(IRI)が毎年授与する賞です。

2011年は、IRIメンバーおよび外部推薦で寄せられた23施設・団体・サービスの中から、下記の4機関が優秀賞に選ばれ、大賞の最終選考対象となりました。

●小布施町立図書館

「交流と創造を楽しむ文化の拠点」として、各種イベントの実施や地元の方100人のインタビューの電子書籍化を行うなど、小布施文化や地域活性化の拠点としての活動を進めている点が今後の地域の公共図書館の在り方の参考となる点が評価されました。

〒381-0297 長野県上高井郡小布施町小布施 1491-2

tel 026-247-2747

fax 026-247-4504

<http://www.machitoshoterrasow.com/>

●住み開き

住み開き(すみびらき)とは、大阪と東京で行われている、自宅や事務所などのプライベートな生活空間を、個人図書館や博物館などセミパブリックとして開放する活動のことです。公からの一方的な情報提供から市民同士による情報提供への変化の一形態としてこれからの図書館のあり方参考になる点が評価されました。

<http://sumibiraki.blogspot.com/>

●東近江市立図書館

「市民の方が生まれてから亡くなるまで、豊かな生活ができるように支えるのが図書館の使命」と考え、市民の自主グループと協同し、市民が地域の問題を発見・学習できる環境を整備することで、図書館がリーダーシップを取る町づくりを積極的に進めていこうとしている点が評価されました。

(八日市図書館)

〒527-0028 滋賀県東近江市八日市金屋 2-6-25

tel 0748-24-1515

fax 0748-24-1323

<http://www.library-higashiom-shiga.jp/>

●森ビルによるライブラリー事業

私立公共図書館（有料）として、利用者の知的生産活動を促す空間の創出をサービスの明確な目標として掲げ、公共図書館事業を企業活動の一環として展開し、一時の話題になることなく、利用者の増加や平河町ライブラリーの開館など継続的な成功を収めている点が評価されました。

〒106-6149 東京都港区六本木 6-10-1

tel03-6406-6649

<http://www.academyhills.com/library/>

<最終選考について>

11月11日（金）午後1時～2時30分、パシフィコ横浜（横浜市みなとみらい）にて、今回決定した優秀賞4機関を対象として、一般公開の最終選考会を開催いたします。最終選考会では、各機関についてIRIメンバーがプレゼンテーションを行い、ディスカッションを経て、審査員7名（選考会一般参加者票1を含む）による投票によって大賞を決定します。合わせて、大賞館及び優秀館の表彰式を行います。

この最終選考会は、パシフィコ横浜で開催される第13回図書館総合展（2011年11月9日～11日）の一環として行われます。入場無料です。

<Library of the Yearについて>

「Library of the Year」は、IRIの選考を担当するグループ（座長：慶應義塾大学教授 糸賀雅児）が中心となり、図書館など全国の知的情報資源に関わる機関を対象として授与する賞で、2006年に始まりました。

選考基準は、以下のとおりです。全国の公共図書館を総合的に評価して、ベストの図書館を決めるものではありません。

- ① 今後の公共図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行なっている。
- ② 公立図書館に限らず、公開された図書館的活動をしている機関、団体、活動を対象とする。
- ③ 最近の1～3年間程度の活動を評価対象期間とする。

過去の授賞館は以下の通りです（詳しくは IRI ホームページ内“Library of the Year ”をご覧ください <http://www.iri-net.org/loy/> ）。

第 1 回の“Library of the Year 2006”は、鳥取県立図書館が受賞しました。県全域を対象として、学校、企業、公的機関など様々な県内の機関と連携しながら、地域に関わって活動することにより、地域の役に立つ図書館をめざす、というこれからの図書館のあり方を示した点が評価されました。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=46587>

第 2 回の“Library of the Year 2007”は、愛荘町立愛知川図書館が受賞しました。図書館員がそれぞれの専門分野を持ち、町づくりに積極的に関わっている点が評価されました。

http://www.town.aisho.shiga.jp/pdf/koho/0801/ais_pr080112.pdf

第 3 回の“Library of the Year 2008”は、千代田区立千代田図書館が受賞しました。都心型図書館の新しいモデルとなることを意識し、図書館コンシェルジュ、古書店と連携した展示・販売仲介、電子図書貸出サービスなど数多くの新規サービスを展開し、地域の様々な機関との連携を進めたことが評価されました。

<http://www.city.chiyoda.tokyo.jp/service/00102/d0010297.html>

第 4 回の“Library of the Year 2009”は、大阪府立中央図書館が受賞しました。HP が四ヶ国語で作られるなど「開かれた図書館」を実践している点、データベースの数が多く利用が簡単であるなど、図書館でのデータベース利用のモデルを示している点が評価されました。

<http://www.oml.city.osaka.jp/>

第 5 回の“Library of the Year 2010”は、カーリルが受賞しました。全国 5,000 館を超える図書館・図書室蔵書の横断検索サービスとして、従来の図書館系のサイト Web サービスを凌駕している点、図書館界に留まらず大きな話題となった点が評価されました。

<http://calil.jp/>

■お問い合わせ先 IRI 事務局

info@iri-net.org

IRI ホームページ <http://www.iri-net.org/loy/>